

社会福祉法人の  
社会貢献活動事例集  
5  
Vol.



大分県社会福祉法人 社会貢献活動推進協議会

 **大分県社会福祉協議会**

〒870-0907 大分県大分市大津町2丁目1番41号 大分県総合社会福祉会館内  
TEL.097-558-0300 FAX.097-558-1635  
<https://www.oitakensyaky.jp/>  
発行 2022年 3月

## 社会福祉法人の社会貢献活動事例集 vol.5 発行にあたって

「大分県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会」は、社会福祉法人制度創設の理念や使命に基づき、これまで以上に地域の信頼や期待に応えていくことを目的として、平成27年7月に設置されましたが、その活動も年々拡充を図りながら7年を経過しようとしています。

本協議会は、趣旨に賛同する大分県内の社会福祉法人によって構成され、相互に協働・連携しながら、それぞれの地域に生じている生活課題や福祉課題と向き合い、積極的に社会貢献活動を展開しています。

また、本協議会の法人間連携による生活困窮者支援事業「おおいたくらしサポート事業」につきましては、相談支援・経済的援助活動を県内各地で展開しており、会員法人からの拠出金により運営されています。

本事例集は、会員法人の様々な取り組みを広く紹介することで、社会福祉法人の役割や活動に一層のご理解をいただくことを目的に発行しています。このたび発行する「事例集vol.5」においても、コロナ禍にありながらも社会福祉法人がもつ強みを活かした地域社会の中での取り組みを紹介しています。

この事例集をご覧いただく皆さまが少しでも社会福祉法人の活動をご理解いただき、共に協力し合いながら、地域共生社会の実現に携わっていただければ、幸いに存じます。

令和4年3月吉日

大分県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会

## 国東市の「地域健康センター元気館」



トレーニングマシンで筋力アップ



「元気健康手帳」で目標と成果を管理

### マシン運動で介護予防

国東市安岐町の社会福祉法人「安岐の郷」は、介護予防拠点施設「地域健康センター元気館」を運営している。60歳以上の住民それぞれに目標に合わせた運動を理学療法士が指導。「転ばない体づくり」で健康寿命延伸を目指す。

元気館は、市から無償譲渡された旧高齢者生活福祉センターの建物を改装して2019年9月にオープン。脚や尻の筋肉を鍛える「レッグプレス」や「アブダクション」、肩や背中作用する「ローイング」、全身に効く「ニューステップ」といった計4種類のトレーニングマシンを置いている。また、天井に設置した機器から下がる2本の赤いロープを手に持ちながら、

いすに座って体を動かすことで完全にストレッチや筋トレができる「レッドコードエクササイズ」を導入し、体幹を鍛えられるようにしている。

利用者はまず、スタッフと話し合っただけで具体的な目標を決め、それを達成するための取り組み（ウォーキングの目標歩数、食事量の目安など）と共に「元気健康手帳」へ記入。理学療法士は、利用者の体調に合わせたマシンの使用回数や、レッドコードを使った体操メニューなどを決めて伴走型指導を行っている。利用料は1回（1時間）で200円。

大切にしているのは「振り返り」。数値の変化や日々の取り組みの感想を手帳に書き込んでスタッフと共有することで、新たな目的意識を引き出している。定期的な

## 高齢者サロンでノウハウ生かす



理学療法士がレッドコードを使って指導

体力測定による客観的評価もプラスになっているという。理学療法士の宮本一樹さんは「一人で努力するのは限界がある。仲間として励ますことが体力の向上につながる」と強調する。利用者数は初年度（半年間）に延べ1408人。翌年度以降は新型コロナウイルス感染症防止のため予約定員制になっているが、千人を超えている。地区の高齢者サロンの運営者も利用し、得た知識をサロンで広めているという。

法人本部の高橋直樹課長は「家で暮らし続けたいという願いをかなえ、地域の活力を維持することも大切な使命だと考えている。コロナが収まれば、世代を超えて集う場として、地域食堂やフリーマーケットといった機能を復活させたい」と話している。

### 社会福祉法人 安岐の郷

住所 〒873-0222 大分県国東市安岐町下山口58番地

TEL (0978)67-2626(代表)

HP <https://www.akinosato.com> 理事長 高橋 とし子

運営施設(事業所) 特別養護老人ホーム鈴鳴荘、特別養護老人ホームむさし苑、養護老人ホーム松寿園、朝来サポートセンター鈴鳴荘、地域健康センター元気館、すこやかクラブ鈴鳴荘(地域型保育事業)、配食サービスセンター鈴鳴荘



13 ページ ← 2 ページ

### 社会貢献事業 | 12の取り組み |

- 安岐の郷……………2
- 大分県社会福祉事業団……………3
- 大分県福祉会……………4
- 九州キリスト教社会福祉事業団……………5
- 下毛もみじ会……………6
- 清風会……………7
- 児童養護施設聖ヨゼフ寮……………8
- 清流共生会……………9
- 同心会……………10
- 中津市社会福祉協議会……………11
- 日田市しらゆり会……………12
- 明峰会……………13

(50音順)

14 ページ

### 社会福祉法人による連携・協働事業 おおいたくらしサポート「事業

## 大分市の「児童家庭支援センターゆずりは」

弁当を楽しんだ  
家族からのお礼  
のはがき



年始向けの食材を  
受け取った家族から  
の年賀状

ゆずりはキッチン事業は、新型コロナウイルスの感染が拡大していた2020年5月に初めて実施した。センターが支援している特定妊婦が暮らす30世帯が対象。乳児用のミルクや離乳食、おむつと共に、保存が利くコメやふりかけ、レトルト食品、カップ麺や子ども向けの菓子などを届けた。

同年9月には対象を広げ、59世帯に計182個の弁当を配布。年越しが迫る12月には、コメに加え、餅やハム、かまぼこなど新年に欠かせない食材を33世帯に配った。購入費はいずれも、支援団体からの寄付金を活用した。

21年度は、赤い羽根共同募金の寄付金を活用して事業を継続。夏休みにはコメや餅、菓子に加えて季節の風物詩であるそうめんを54世帯に配布。12月には年始向け食材を28世帯に配った。

事業を担当する心理士・社会福祉士の井手彩記子さんは「手紙や電話、メールなど多くの声が寄せられ、涙が出るほどうれしかった」と振り返る。文面からは、食卓を囲んで楽しいひとときを過ごした様子が深く伝わってくる。

21年末の配布物には返信用の年賀状を加えた。「ひとり親だったり、保護者が病気を抱えていたり、生活困窮世帯の状況はさまざま。年賀状を出すこともままならない家庭もある。子どもたちは目に見える世界が全て。お礼のはがきを出すということを学ぶソーシャルスキルトレーニングにもつながる

## 食材を提供「ゆずりはキッチン」



乳児向けの物資も支援



ゆずりはキッチン事業を通して、子どもたちの成長を支援  
(写真の一部を加工しています)

てている」と井手さんは話す。「初めておせち料理を作りました」というメッセージを見て「やって良かった」と思ったという。

SOSを発している家庭を、24時間365日体制でさまざまな支援とつないでいる「ゆずりは」。20年度の相談件数は延べ2734件に上る。井手さんは「支援を求める『受援力』が弱い家庭もある。寄り添い伴走する相談を続けていきたい」と意気込む。

**初めての「おせち」で歓喜の輪**

社会福祉法人「大分県福祉会」(大分市)が運営する児童家庭支援センター「ゆずりは」は、生活困窮世帯に食材などを届ける「ゆずりはキッチン」事業に取り組んでいる。新型コロナウイルス禍に伴う家庭収入の減少が厳しさを増す中、寄り添う事業が家族の心を温かく支えている。

## 大分県社会福祉事業団の相談支援事業所「ほほえみ」(日出町)



障がい者の家族から寄せられる相談に乗る

「親なきあと」とは一般的に、障がい者が生活する上で、家族などが亡くなったり高齢になつたりしてサポートを得られなくなったときのことをいう。相談室は県内6カ所の福祉施設に設置。障がい者の家族から寄せられる、「自分がいなくなった後、どうなるのか」「お金の管理はどうしたらいいか」などの相談に乗り、情報を提供している。

同事業団の救護施設「大分県深泉寮」にある「けいせんプラザ」内の「ほほえみ」も、相談室の一つ。「家族が抱える悩みはさまざまだが、先々の不安が大きく、課題や、必要な支援がはつきりしていないことも多い」と話すのは、相談支援担当の安倍克恵さん。悩みを聞き、課題を明確化して、障がい者の生活の基盤づくりを促している。少しでも家族の不安を解消するため、「障がいのある方のライフスタイルを設計する」「一人暮らしの練習を始める」「生活に必要なお金の流れを考える」など、具体的な取り組みをアドバイスしている。

次の支援者のために、障がい者の生活状況などの情報を整理しておくことも重要。行政が配布する記録ノートを活用し、医療情報や日常生活の様子、配慮してほしい行動などを詳しく

## 「親なきあと」の自立を支援

**障がい者の生活相談室を開設**

大分県社会福祉事業団は、障がい者の生活を支えている人が、高齢などを理由に支援できなくなった後も、障がい者が自立して生活できるようにサポートする「親なきあと相談室」を開設している。

課題は「支援を必要としている全ての人に情報が届くようにすること」と安倍さん。一人一人の悩みに向き合い、行政と連携しながら、障がい者を守るネットワークの構築を目指す。「障がいがある方に地域の目が届き、見守りや助け合いができる仕組みをつくりたい」と話している。

記した、引き継ぎ書の作成を勧める。相談室がワンストップ窓口となり、入所施設などの住む場所、身の回りの世話をするヘルパー、成年後見制度などお金の管理の委託先、医療費助成を担当する市町村の各課などへ橋渡しもする。



相談支援担当の安倍克恵さん 「ほほえみ」が入る「けいせんプラザ」



### 社会福祉法人 大分県福祉会

住所 〒870-0025 大分県大分市顕徳町1丁目13-17 中央ホールディングスビル2F  
TEL (097)574-8525 HP <https://www.oitakenfukushikai.com>  
理事長 有松 一郎

運営施設(事業所)  
児童家庭支援センター ゆずりは・児童養護施設 森の木  
滝尾保育園・明野しいのみ保育園  
母子生活支援施設 別府厚生館  
障がい者支援施設 うえの園・相談支援事業所 うえの園  
障がい児入所施設 清明あけほの学園



### 社会福祉法人 大分県社会福祉事業団

住所 〒870-0907 大分県大分市津町2丁目1番41号  
TEL (097)552-1316 HP <https://www.oitaswo.jp>  
理事長 青木 繁

運営施設(事業所)  
大分県深泉寮(救護施設)、相談支援事業所ほほえみ、  
福祉農園ハイテック(就労継続支援B型、就労移行支援)、  
共同生活援助事業所けいせん(共同生活援助)、  
けいせんプラザ(無料低額宿泊事業、日常生活支援住居施設、短期入所)など



## 中津市の「下毛もみじ会」



耶馬溪地域福祉ネットワーク会議の会場で情報交換



自宅に「もみじランチ」を配達

ネットワークは2018年2月にスタート。会長は置かず、中津市社会福祉協議会地域福祉課の地域福祉係(耶馬溪)と、下毛もみじ会のコミュニティソーシャルワーカー(CSW)が事務局・相談窓口機能を務めている。

### 困りごとを「強み」の提供で支援

中津市耶馬溪町の社会福祉法人「下毛もみじ会」は、地域のさまざまな団体と「耶馬溪地域福祉ネットワーク会議」を構成し、困りごとへの連携・協働を図っている。支援を必要とする住民に各団体が「強み」を提供するつながりとして期待されている。

## 耶馬溪地域福祉ネットワーク会議

構成団体は▽自治委員会▽民生委員児童委員協議会▽地域見守りネットワーク協議会▽住民型有償サービス「たんぼぼ」など地域団体をはじめ、▽同市耶馬溪支所▽田舎困りごとサポーターなど行政機関、▽地域包括支援センター▽特別養護老人ホームやすらぎ荘など福祉機関・施設に加え、郵便局も参加している。

各団体から「困っている人がいる」「何か支援ができないか」といった相談があると、必要な支援機能を持つ団体に事務局が声を掛け、話し合っつて対応策を考え、実行する。

取り組みの一つとして、21年に実施した子育てファミリー応援事業「もみじランチ」がある。小学6年生やその年少きようたいを対象に、春休みの計3日、夏休みの計5日、冬休みの計4日、カレーやスパゲティといった昼食を無料で自宅に届けた。

下毛もみじ会は、指定障害福祉サービス事業所「もみじ園」を運営しており、利用者38人へ給食を提



「もみじランチ」を手に「いただきます！」



配達された「もみじランチ」を受け取る子どもたち

写真の一部を加工しています

供している。この機能を活用し、主任児童委員や市社協職員と協力して実現した。多忙な保護者の代わりに昼食を準備し、訪問して会話することで見守り機能を果たす他、地域のつながり強化にも貢献している。

CSWの瀬戸間ゆかりさんは、民児協の月例会などの会合にオブザーバーとして参加している。「各団体の強みを初めて知ることも多く、新たな連携・協働へのきっかけになっている。おおいたくらしサポーターや障がい者相談支援など、本会が取り組んでいる事業の周知も進めたい」と意気込む。平原伸理事長は「制度の隙間にある困りごと」にプロが連携して取り組み、地域の活性化につなげたい」と話している。

### 社会福祉法人 下毛もみじ会

住所 〒871-0401 大分県中津市耶馬溪町大字平田1479番地1  
TEL (0979)54-3490  
HP <https://momiji-en.com>  
理事長 平原 伸

運営施設(事業所) 指定障害福祉サービス事業所もみじ園  
共同生活援助始業事業 グループホームとちの木、とちの木2  
特定相談支援事業・障害児相談支援事業 サポートセンターもみじ



## 中津市の「いずみの園」



さまざまな世代が集まり、食を通して交流を深める



設置した「おおいた子ども食堂応援自動販売機」

食事の前に勉強する子どもたち

### 食が育む地域のつながり

かきぜdeキッチンが2019年7月にスタート。毎月第3日曜の午前11時半から午後2時までオープンし、予約制で約30人にカレーを提供している。食事代として中学生以上200円、小学生以下100円を支払

えば誰でも利用できる。運営するのはかきぜサポーターの職員。毎月カレーの種類を変え、利用者を楽しませるために工夫を凝らす。子どもたちは、食事の前後で勉強したり遊んだり。小さい子

「かきぜdeキッチン」を開催  
中津市の中津総合ケアセンター「いずみの園」は、市内の「かきぜサポーターセンター」で、誰もが利用できる子ども食堂「かきぜdeキッチン」を開催。食を通して地域住民の交流と、居場所づくりを促進している。

どもと一緒にやって来る父親もいる。にぎやかな様子を眺めながら高齢者がおしゃべりを楽しむなど、利用者は思い思いのひとときを過ごす。

同センターには、デイサービスセンター、訪問看護、児童発達支援・放課後等デイサービス、中津市子育て支援センター、障害者生活支援センター、地域活動支援センター型などの機能を備えた「福祉の里センターサマリア館」、小規模多機能型居宅介護事業所、グループホーム、児童クラブが立ち並び、かきぜdeキッチンの開催には、多岐にわたる事業を担う施設のことを知ってもらい、活用してもらいたいという思いも込められている。

さまざまな人が利用する同キッチンは、「コミュニケーションが生まれ、新たなつながりが生まれる場となる。かきぜサポーターセンターの谷口弘美施設長は「小学生が、そばにいたお年寄りに水のお代わりを持ってきてあげるなど、利用者間で自然とそういう関係性が生まれている」とうれしそうに話す。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、20年11月を最後に中止しているが、「子ども食堂の灯を消さないように」と、敷地内に「おおいた子ども食堂応援自動販売機」を設置した。売上げの一部が、県内で活動中の子ども食堂を応援する基金に寄付される。できることに取り組みながら、同キッチンが再開できる日を待ち望んでいる。

### 社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団

住所 〒871-0162 大分県中津市大字永添2744  
TEL (0979)23-1616 HP <http://www.izuminosono.jp>  
理事長 富永 健司

運営施設(事業所) 特別養護老人ホーム、ケアハウス、有料老人ホーム、グループホーム、デイサービス、訪問介護(定期巡回・随時対応型訪問介護看護、夜間対応型訪問介護)、介護保険サービスセンター、地域包括支援センター、就労継続支援事業、生活介護、人材育成・研修センター、くらしサポート相談室など



## 中津市の「永添児童クラブまりあ」

永添児童クラブまりあは同市大幡校区の児童を対象に、1999年に誕生。同法人の児童養護施設に併設していた中学校「ドンボスコ学園」(97年に休校)の旧校舎でスタートした。同法人の村松泰隆副施設長は「学園の休校後、児童養護施設の子どもたちが市立の中学校に通うようになった。地域の皆さんの支えを受ける中、法人として地域に貢献できる活動をしように放課後児童クラブを始めたと振り返る。2013年からは、敷地内に新たに建設した「まりあ

### 家庭に代わる生活の場提供



おもちゃで遊ぶ子どもたち



みんなで縄跳び

**自然豊かな環境で楽しく元気に**  
中津市永添の社会福祉法人「聖ヨゼフ寮」は、放課後児童クラブ「永添児童クラブまりあ」を運営している。共働きの家庭の子どもたちに対して、放課後や長期休暇中に、家庭に代わる生活の場を提供している。

ホール」で運営している。日曜や第4土曜、祝日、年末年始、盆を除き毎日開所。平日は下校時から、土曜や夏休みなど長期休暇中は午前8時半から受け入れ、午後5時まで開所している。現在、小学1〜3年の計36人が在籍。子どもたちと共に過ごす支援員は8人いる。敷地が広く、自然豊かな環境が特徴。まりあホールは木のぬくもりに包まれ、子どもたちが心地よく過ごせるような工夫が施されている。野外には遊具や砂場、グラウンド、屋根付



寒い日も外遊び

きの体操場などがある。畑では季節の野菜を収穫し、クヌギ林では夏に昆虫採集をする。敷地は歩くと1周20分ほどの広さで、人気の探検コースになっている。子どもたちは「友達がいるから楽しい」「いつも鬼ごっこや縄跳びをしているよ」と元気いっぱいに過ごしている。支援員リーダーの本間祥子さんは「支援員同士アイデアを出し合って、子どもたちが喜ぶ遊びやイベントを考えている。今日も来て良かった」と思ってもらえる場をすることを心掛けていく。村松副施設長は「子どもたちには、大人たちに見守られている、愛されていると感じながら過ごしてほしい。これからも働く保護者が安心して預けられるクラブにしたい」と話している。

### 社会福祉法人 児童養護施設聖ヨゼフ寮

住所 〒871-0162 大分県中津市永添2646-4  
TEL (0979)22-2320  
HP <https://st-joseph-dormitory.localinfo.jp>  
理事長 横井 哲  
運営施設(事業所) 児童養護施設聖ヨゼフ寮、放課後児童クラブ永添児童クラブまりあ



## 由布市の「温水園」<sup>めぐみ</sup>

東さんは1908年、日田市生まれ。林業に従事した後、50代で由布市湯布院町に雑貨店を開いた。86年に温水園に入所し、83歳で水彩画を描き始めた。足が不自由で1人で出歩けなかつたため、新聞や雑誌の写真を基に描き続け、2007年3月に99歳で亡くなった。四季折々の由布岳や、記憶に残る山の景色など、独特の自然描写は美術の専門家からも高い評価を受けており、21年には東京都美術館で作品が展示された。



佐藤珠美常務理事

### 絵画を通じて勇気与える

園内に常設展示場を開いたのは、東さんが亡くなった年の8月。由布院盆地ゆかりの美術品を地元にとどめる活動をしているNPO法人「由布院アートストック」と連携し、実現した。約130点ある作品の中、から常時20点ほど展示している。事前に問い合わせれば、誰でも無料で鑑賞できる。同園の佐藤珠美常務理事は「東さんの作品は私たちに、『いくつになっても自分の可能性を追求できる』というメッセージを与えてくれる。作品を見て、何か行動を起こさずきっかけにしてほしい」と話す。同園は高齢者の生きがいづくりを大切にしており、83歳から才能を開花させた東さんは、入所者にとって勇気を与えてくれる存在だ。地域の中にも「東さんがいたから頑張れる」と、高齢になって新しいことを始めた人もいるという。高齢者の終のすみかとなる老人ホーム。とすれば暗いイメージを持たれがちだが、東さんの作品には、それらをカラッと一掃する明るさがある。「福祉の現場はこんなに明るく、元気をもらえる場所だ」ということを、これほど説得力を持って伝えるコンテンツはない」と佐藤常務理事。福祉業界のイメージアップや人手不足解消のためにも「多くの人に見てもらいたい」と願っている。

**東勝吉さんの作品を常設展示**  
ひがしかつきち  
由布市の社会福祉法人「清風会」は、運営する特別養護老人ホーム「温水園」で、入所者だった故東勝吉さんの絵画作品を常設展示している。地域に広く開放し、入所者はもちろん、多くの人に勇気を与えている。



東さんが使用した画材なども展示



展示された東さんの作品



東さんの作品を展示しているホール

### 社会福祉法人 清風会

住所 〒879-5114 大分県由布市湯布院町川北1964  
TEL (0977)85-3722 HP <http://www.nukumien.or.jp>  
理事長 佐藤 忠興  
運営施設(事業所) 特別養護老人ホーム温水園、シルバーケア総合センターめぐみ ショートステイ事業部、シルバーケア総合センターめぐみ ケアプラン事業部



## 津久見市の「しおさい」



毎月発行している「しおさい栄養だより」

### 栄養だよりで情報発信

しおさいは、海岸風景が美しい風光明媚な津久見市長目の地に、社会福祉法人「同心会」が2003年に開設した高齢者総合福祉施設。特別養護老人ホーム(70床)、ショートステイ(10床)、養護老人ホーム(50床)、デイサービスセンター(定員18人)などの事業を行っている。

栄養だよりの作成は、地域貢献活動の一環で、06年7月にスタートした。しおさいの管理栄養士が編集を担当し、工夫を凝らして紙面

**健康的な食生活の大切さ伝える**

津久見市の高齢者総合福祉施設「しおさい」は毎月、「しおさい栄養だより」を作成し、地域住民に配布している。地域貢献を目的に、15年以上にわたって地道な情報発信を続け、健康的な食生活の大切さを伝えている。

作り。風邪予防に有効な栄養素、食品口スを減らす生活習慣、栄養バランスの取れた食材の選び方、心身の機能が弱る「フレイル」の予防法、適切な水分補給のポイントなど、毎回テーマを変え、さまざまな情報を紹介している。現在、奇数月を宮子佳奈さん、偶数月を中野悦子さんが担当し、毎月発行している。

長目地区には浦代、長目、釜戸、伊崎、楠屋の五つの集落があり、各集落の回覧板を通じて、計約120世帯の地域住民に栄養だよりを届けている。地域住民からは「いつも参考にしている」などと反響があるという。

しおさいの入所者や利用者、職員にも読んでもらおうと、施設内にも掲示。施設のホームページからも見られるようにしている。

過去の栄養だよりも積極的に活用。不定期に載せている料理のレシピが地域住民から好評で、5年前にはレシピ集を作り、希望者に配布した。他にも、体調不良の職員がいるときには、回復に役立ちそ



毎月テーマを変えて作成



栄養だよりを作る宮子さん(左)と中野さん

うな情報が載っている紙面を印刷し、本人に渡すなどして生かしている。

中野さんと宮子さんは「日頃から栄養に関する情報にアンテナを張って、話題探しをしている。心掛けているのは、誰が読んでも分かりやすい内容。これからも栄養だよりの情報を地域の皆さんに活用してもらえたらうれしい」と話している。

#### 社会福祉法人 同心会

**住所** 〒875-0033 大分県臼杵市大字大泊220番地(法人本部)  
〒879-2476 津久見市大字長目2715番地の5(しおさい)

**TEL** (0972)63-2762(法人本部)、(0972)85-0539(しおさい)

**HP** <http://fuku-doushinkai.or.jp> **理事長** 一原 浩

**運営施設(事業所)**  
〈津久見〉高齢者総合福祉施設 しおさい  
〈臼杵〉高齢者総合福祉施設 緑の園、諏訪緑の園、養護老人ホーム 臼杵市安生寮



## 大分市の「清流苑」



2年ぶりにカフェを開催



カフェが開かれたデイサービスセンター清流苑

**地域住民の居場所をつくる**

大分市の社会福祉法人「清流共生会」は、ケアセンター「清流苑」でカフェを開き、認知症予防や介護予防のための体操やストレッチ、脳トレーニングなどを実施。地域住民の健康づくり、居場所づくりに取り組んでいる。

### カフェで認知症・介護予防

社会的孤立のリスクを抱える人たちを地域で受け止め、共に生きていく「地域共生社会」の実現を目指す清流苑。認知症の人と家族が気軽に相談でき、安心して立ち寄れる居場所づくりに向け、2016年から月1回、さまざまな世代が集い、交流を深める「ライフUPカフェ」を開催してきた。認知症の人と地域の子どもたちが一緒に料理を作ったり、工

作を楽しんだり。デイサービスに行くのは嫌がるが、カフェなら行くという認知症の人もいたという。認知症サポートセンター養成講座や専門家の講演なども実施し、地域住民の認知症への理解も深めた。

認知症予防や介護予防を目的に、施設の機能訓練指導員や介護職員らを公民館に派遣し、健康体操や脳トレ活動を行う「ライフUP来楽舞」



器具を使って体を動かす参加者

ラブ」も実施し、地域住民の健康づくりをサポートしてきた。

新型コロナウイルスの感染拡大によって開催が困難になる中でも、実施可能な方法を模索。双方を組み合わせ、感染状況が比較的落ち着いていた21年11月に、参加地域や人数を限定して2年ぶりにカフェを開いた。参加者は施設の器具を使って体を動かすなど、介護予防や認知症予防に取り組み、お茶を飲んで交流した。カフェは12月にも開催した。

清流苑地域連携室の榎原幸室長は「今後も状況に応じて、やり方を検討しながら続けていきたい。認知症の人や家族をはじめ、誰もが気軽に立ち寄れる、なじみの場所をつくりたい」と話す。高齢者向けサービスだけでなく、障害者支援や認定こども園の運営など、多様な福祉事業を担う清流苑。「カフェをきっかけに施設のことを知ってもらい、困り事があれば声を掛けてもらえる存在になりたい」と考えている。

#### 社会福祉法人 清流共生会

**住所** 〒870-0128 大分県大分市大字森336番地 **TEL** (097)527-6600

**HP** <https://seiryu-kyousei.org> **理事長** 児玉 哲郎

**運営施設(事業所)**  
特別養護老人ホーム、地域密着型特別養護老人ホーム、ショートステイグループホーム、住宅型有料老人ホーム、ケアマンション、生活支援ハウス  
デイサービスセンター、認知症対応型デイサービス、  
小規模多機能型居宅介護施設、介護保険サービスセンター、訪問看護、訪問介護、夜間対応型訪問介護、訪問入浴、東陽地域包括支援センター



## 日田市の「ひた福祉就労センター」



水路の中で草取り



草刈りやごみ拾いをする利用者ら



多いときには30袋以上のごみや草が集まる

### 地域のためにできることを

同センターは、社会福祉法人「日田市しらゆり会」が運営する社会事業の授産施設。心身の理由や家庭の事情で一般企業での就労が困難な人に、働く場や訓練を提供しながら自立を促している。市内の企業などから受注した金属製品や木製品を取り扱い、利用者(定員30人)が選別や研磨、塗装作業などを行っている。

草刈りやごみ拾いなどの活動は、藤高敏明施設長の提案で始まった。「地域の一員として、地域社会に役立つことをしよう」と呼び掛けた」と振り返る。

少人数、全員での活動を合わせる。年に約10回実施。毎回1〜2時間、近隣の公共施設周辺の雑草の刈り取りや水路の中の草取り、ごみ拾い、樹

木の剪定に取り組んでいる。刈り取った草や、空き缶やペットボトルのごみは、多いときには30袋以上にもなるといふ。道を歩く人や近隣住民から「ありがとう」といふ声を掛けられることもあり、利用者らの励みになっている。利用者は取り組み前に比べ、センター内の清掃や整理整頓にも気を配るようになるなど、日常生活にも良い影響が出ているという。

日田市では、企業や団体が公共施設の清掃をする「水郷のまちクリーンアップ制度」を設けている。同センターは、責任感を持って施設周辺を美化していこうと20年4月、制度に登録した。藤高施設長は「地域の皆さんに喜んでいただけるよう頑張っている。これからも地道に続けていくことを大切にしたい」と話している。

### 草刈りやごみ拾いを10年間継続

授産施設「ひた福祉就労センター」(日田市中城町)が取り組む、近隣の草刈りやごみ拾いなどの地域社会貢献活動が、開始から2022年で10年を迎えた。利用者や職員は「地域社会のためにできることを」と、奉仕の継続へ思いを新たにしている。

## 中津市の「豊寿園」



道の駅なかつの特設コーナー

手芸品や野菜作りは、入所者の生きがいづくり活動の一つ。畑仕事で得意な人、手先が器用な人など、それぞれが長年の経験を生かし、互いに協力して作業している。出来上がった野菜は自分たちで食べる他、近くの事業所などに販売。アクリルたわしやコースター、正座いすといった手芸品は、道の駅なかつの協力を得て特設コーナーで販売し、好評を得ている。新型コロナウイルスの感染拡大前は、さまざまな行事にもブースを出して自慢の品を販売していた。

### 入所者が活動通じ地域支援

園は2015年から、入所者の活動の成果を地域に還元しようと、社会貢献事業に取り組んでいる。手芸品や野菜の売り上げを財源に、さまざまなニーズを吸い上げながら、災害被災地や生活困窮者の支援を行っている。

17年にはバスをレンタルし、水害に遭った津久見市に、園の職員や近隣住民らで構成するボランティアを派遣した。20年には、豪雨で被災した日田市天瀬町に飲料水やポリタンクなどの支援物資を送った。生活困窮者には、市社協の要請を受けて園の入浴施設を開放。給食業務を担当する事業者と共同し、食事も提供している。園には、就職先が見



協力して野菜作りに取り組む

手芸品や野菜の売り上げ財源に  
中津市社会福祉協議会が運営する養護老人ホーム「中津市豊寿園」では、入所者が手芸品や野菜作りに取り組んでいる。出来上がった物は販売し、売り上げを生活困窮者や災害被災地の支援などに役立てている。



日田市天瀬町に送った支援物資



津久見市にボランティアバスを派遣

つかり、新たな一歩を踏み出した人から感謝の手紙も届いている。

倉田俊光施設長は「入所者の皆さんは、自分たちの活動が地域に役立つていることを理解し、誠実に取り組んでいる。必要とされていることにやりがいを感じているようだ」と話す。コロナ禍の昨年は、コロナ差別防止運動「シトラスリボンプロジェクト」に賛同してリボンを作り、中津市内の公民館や小学校などに無料で配った。入所者一人一人が、しっかりと社会の一員としての役割を果たしている。

### 社会福祉法人 日田市しらゆり会

住所 〒877-0011 大分県日田市中城町1-66  
TEL (0973)22-5415 HP <https://www.hita-shirayuri.or.jp>  
理事長 鬼武 律男

運営施設(事業所) ひた福祉就労センター



### 社会福祉法人 中津市社会福祉協議会

住所 〒871-0021 大分県中津市沖代町1丁目1番11号  
TEL (0979)24-4294 HP <http://www.nakatsu-s.or.jp>  
理事長 会長 松下 太

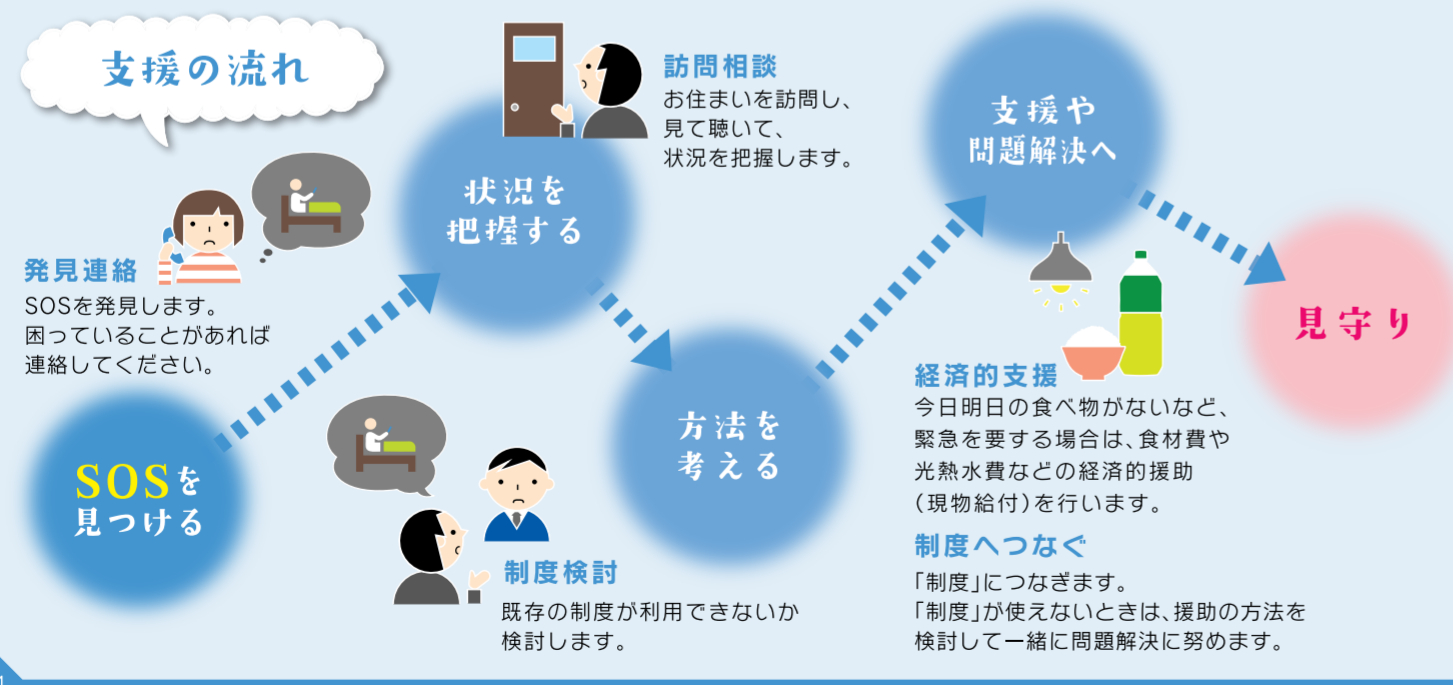
運営施設(事業所) 養護老人ホーム中津市豊寿園・中津市特別養護老人ホームやすらぎ荘  
中津市教育福祉センター、三光福祉保健センター、生活支援ハウス  
本耶馬溪総合福祉センター、地域包括支援センター社協、  
居宅介護支援事業所、通所介護事業所、訪問介護事業所、訪問入浴介護事業所



# 「おおいた“暮らしサポート”事業」(生活困窮者等に対する相談支援事業)

この事業は、大分県内の社会福祉法人(施設)で構成する「大分県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会」が実施します。各施設が互いに連携、協働し、既存の制度では対応しきれない狭間の問題や、生活困窮などの課題を社会福祉法人としての「強み」を活かして迅速に対応することを目的としています。

みなさんの暮らしにまつわる相談を受けつけます。失業、虐待、けがや病気が原因で生活に困っている人はいませんか?



# 宇佐市の「明峰会」



まちな中ひかり食堂のチラシを持つ志田理事長



食堂で提供した食事の一例

まちな中ひかり食堂で、食事を楽しむ子どもたち

## 地域とつながり、支え合う

**食堂を運営し、道路清掃にも力**

宇佐市の社会福祉法人「明峰会」は、コミュニティサロンで「まちな中ひかり食堂」を開き、地域の子どもらに食事を提供してきた。地域とのつながりを大事にし、道路の清掃活動にも取り組んでいる。

食堂は、明峰会が設立したNPO法人「おたすけネットひびき」が運営するコミュニティサロン「四日市まちな中サロン」内に、2019年にオープンした。栄養バランスを考えた食事を、毎月第2水曜の午後4時から同7時まで提供。小・中学生は200円、高校生以上は300円で利用できるようにした。

明峰会の志田絵里理事長は「親が夜間働いている子どもたちが、一人で食事をしなくてすむように、サロンに集まる地域住民と一緒に食事ができないかと考えたのがきっかけ」と振り返る。

食事を提供する、明峰会が運営する老人ホーム「ケアハウス光」の職員。子どもたちにはハンバーグやカレーライスといったメニューが人気で、職員が育てた野菜も料理に使った。外国人旅行者が立ち寄ることもあり、食堂は集まった人たちの交流の場としてにぎわった。子どもの家族が利用することもあり、働く親の夕食作りの負担軽減にも貢献した。



側溝の落ち葉を取り除く職員

現在は、人手不足に加えてコロナ禍の影響もあり、活動を休止しているが、4月に新しく開設する地域密着型の小規模多機能居宅介護施設で、再オープンする構想がある。志田理事長は「食堂を長く続けるために安定したマンパワーを確保し、サロンと協力して地域貢献の拠点にしたい」と意気込む。

明峰会は長年、ケアハウス光周辺の道路の清掃も行っている。地域住民の散歩道で、子どもたちの通学路になっている道路の安全を保つため、職員が定期的に側溝の落ち葉を取り除き、草を刈るなどしている。「社会貢献をすることで地域とつながり、お互いを助け合える関係を築きたい。その関係をまちづくりにつなげたい」と志田理事長。

### 社会福祉法人 明峰会

**住所** 〒879-0471 大分県宇佐市大字四日市4442-1  
**TEL** (0978)33-4730 **HP** <http://meihokai.or.jp>  
**理事長** 志田 絵里子

**運営施設(事業所)** ケアハウス光、ウェルネスひかり、ひかりティサービス、グループホームオハナ、ひかり介護サービス、福祉農場 安心家族、グループホームひびき山

